

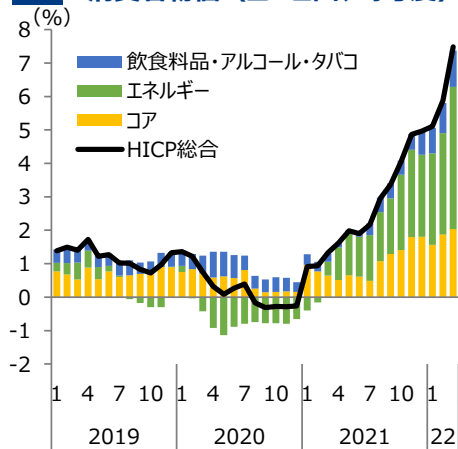
欧州

消費者物価（2022年3月）

記録的な物価上昇継続、脱ロシアで物価高止まりを見込む

政策・経済センター
綿谷謙吾
03-6858-2717

1 消費者物価（ユーロ圏、寄与度）

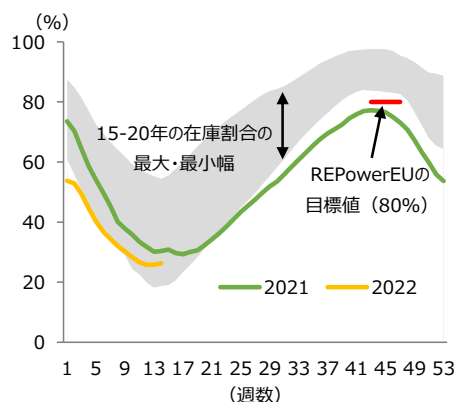
注：コアは、除くエネルギー、食料品・アルコール・タバコ。
出所：Eurostatより三菱総合研究所作成

2 REPowerEUの概要

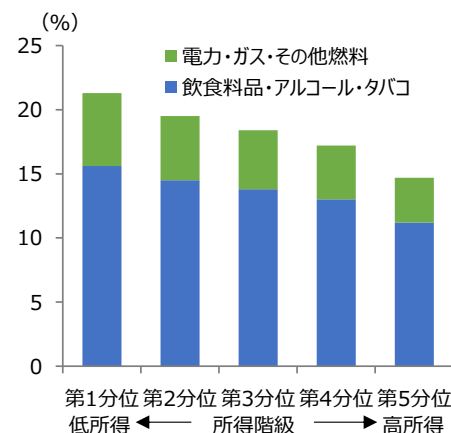
- 緊急対策**
- エネルギー価格高騰の影響を受ける、家計や企業への支援継続
 - 11月1日にまでに域内のガス貯蔵量を80%以上に など
- 化石燃料の脱ロシア**
- ロシア以外からのLNG輸入、パイプラインの多角化
 - バイオメタン生産、再生可能水素の域内生産と輸入の増加
 - ヒートポンプの年間導入ペースをFit for 55と比較し倍増
 - 風力、太陽光の導入加速 など

注：3月8日の欧州委員会公表資料では、ガス貯蔵量の目標は10月1日までに90%以上であったが、3月23日公表の規則案では、年内は11月1日までに80%以上、来年以降は11月1日までに90%以上となっている。
出所：欧州委員会より三菱総合研究所作成

3 天然ガス在庫（欧州）

注：在庫割合の各年の週数平均。直近は22年14週目（22年2月27日の週）。
出所：AGSIより三菱総合研究所作成

4 所得階級別消費シェア（ユーロ圏）

注：2015年。Household Budget Surveyをもとに作成。
HICPのエネルギーには、自家用車などの燃料が含まれるが、データの制約から、電力・ガス・その他燃料のみで作成。
出所：Eurostatより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 22年3月のユーロ圏の消費者物価指数（HICP、速報値）は前年同月比+7.5%と97年の統計開始以来の過去最高を再び更新（図表1）。
- エネルギー価格はウクライナ情勢を受け、同+44.7%の上昇。ECBが注目するコア物価も、同+3.0%と2月（同+2.7%）から上昇幅が拡大。

基調判断と今後の流れ

- ユーロ圏の消費者物価は、エネルギー価格高止まりにより上昇が続いている。
- 先行きの注目点は、脱ロシアを目指すなかエネルギー価格の高止まりが続くのか、エネルギー価格の高騰が期待インフレ率の上昇につながるかだ。
- 欧州委員会は、化石燃料のロシア依存脱却を目指し、「REPowerEU」を公表した。同計画では、年末までにロシア産の天然ガスに対する域内需要の3分の2の削減と、2030年よりも前に化石燃料の脱ロシア化を達成することを目標に、天然ガスの在庫確保など各種施策を打ち出している（図表2）。
- 欧州は天然ガスの約4割をロシアから輸入しており、ロシアからの供給減に対応するため、米国やカタールなどロシア以外からの輸入を増やしている。天然ガスの在庫割合は改善しているが、目標達成にはロシア産以外からの輸入拡大が必要な状況にある（図表3）。欧州の脱ロシアの動きにより国際的な需給のひっ迫が続けば、エネルギー価格が高止まりする可能性は高い。
- ウクライナ情勢は、食料品価格にも影響を与えており、家計のインフレ期待も高まっている。家計の所得階級別に、消費支出シェアをみると、所得が低い層（第1分位）ほど、エネルギーや食料品への支出割合が高い（図表4）。高水準の物価上昇が続けば、消費は下振れし、回復ペースは鈍化するだろう。
- 欧州経済は景気下振れと物価高止まりリスクに直面している。3月のECBの会合では、正常化に向け資産買い入れ縮小ペースの前倒しを決定した。スタグフレーション懸念もある中、ECBは難しいかじ取りを求められるだろう。